

## 支笏湖で外来の生き物と向きあう ～外来種ってなに？～

環境省 北海道地方環境事務所 支笏洞爺国立公園管理事務所

環境技官 稲村 友里

自然保護官補佐 阿部 万純

皆さんはペットを飼ったことはありますか？ザリガニを釣る遊びや、お祭りでカメすくいや金魚すくいをした経験はありますか？今回の企画展のテーマである外来種をめぐる状況は、私たちにとって身近な問題でもあるのです。この問題を解決する唯一の方法は、現代を生きる私たち一人ひとりが自分事として興味を持ち、学び、行動すること。そのための第一歩として、この講演会では実際の取り組みや外来種に関するルールを見ながらみんなで一緒に考えてみましょう。

まず前半では、支笏湖やその周辺での外来種問題に対する具体的な取り組みを紹介しします。道路沿いで一面に黄色の花を咲かせているオオアワダチソウとオオハンゴンソウ。きれいな花ですが、広がる力が強過ぎてほかの草花の生育場所を奪ってしまうため、支笏湖ビジターセンターのスタッフやボランティアと協力して、手作業で根から抜き取る活動をしています。このほか樽前山のコマクサや、洞爺湖のウチダザリガニについて紹介しします。

後半では、そもそも外来生物・外来種ってなんだろう？どうして規制や除去をするのだろうか？という疑問を皆さんと考えていきます。企画展や講演会では、主に外来種にどんな問題があるかということをお伝えしてきましたが、外来種と呼ばれる生き物自体には実の所まったく罪はありません。むしろ、突然放り出された土地でなんとか生きて子孫を残そうと日々懸命に暮らしています。それがどうして問題になるのでしょうか。どうすれば解決できるのでしょうか。一人ひとりが問題に向き合うためのヒントとして、外来種に対する考え方等を紹介しします。

周囲を海に囲まれた島国である日本には、長い時間をかけて形作られた独自の自然環境がたくさんあります。一方で、人間が持ち込んだ生き物により、その多様な自然環境は失われつつあります。身近な生き物である外来種について、私たちは日常の中でどんなことができるのでしょうか。この機会に、ぜひ一緒に考えてみましょう。